

請願第1号

野田市における土曜授業中止を求める請願

紹介議員 星野 幸治

紹介議員 小室美枝子

(請願趣旨)

11年前に始まった野田市の土曜授業は、当初、野田市内の小中学生の学力向上を目的に始められました。しかし、この11年の土曜授業の推移を見ると、学力向上に資する授業を、地域の特性を生かした授業を、平日の授業の延長線上で有効な授業をと、その時々野田市教育委員会の見解は変化してきました。このことから、私たちはこの11年間で土曜授業によって学力向上の確かな成果は得られなかったことを意味するものと考えます。

その一方で、子供と教師への負担感は増えています。県内の土曜授業の実施自治体は野田市だけということもあり、子供たちの土曜授業への意欲は低下し続けています。7月、9月の猛暑の中、僅か3時間の授業のために登下校することで、体力的にも負担を強いられている子供もいます。教員の働き方改革が叫ばれる中、土曜日の勤務時間と土曜授業のための準備・調整に要する時間は、他市の教職員よりも明らかに超過分として上積みされています。

以上の点を踏まえて、私たちは、土曜授業の中止を求め、子供たちがより生き生きと学び、教師がゆとりを持って働く野田市に変えたいと考えています。

(請願項目)

子供たちがより生き生きと学び、教師がゆとりを持って働くために、野田市における土曜授業を中止にすること

令和7年2月28日

野田市議会議長 古橋 敏夫 様

請願者

柏市明原1-5-12 東葛教育会館201号

東葛教職員組合気付

ゆきとどいた教育をもとめる野田連絡会

代表 坂野 大輔 外 981名

## 陳情第1号

国民健康保険料の引上げをやめ、18歳未満の均等割保険料の免除を求める陳情

### (陳情趣旨)

日頃から市民の暮らしと健康を守るため尽力をいただき感謝いたします。

昨年の9月議会における市政一般報告では、国民健康保険料を9,500円も引上げと今後も引き続き引上げを行うような内容でした。

コロナ禍以降、食料品、生活必需品の軒並み値上げ、原油高騰による電気・ガス料金の値上げなど、暮らしに重い負担が押し寄せの中で、これ以上、国民健康保険料が引き上げられれば、払いたくても払えない事態となり、医療にもかかれない人が増え、国民皆保険制度そのものが形骸化されることになりかねません。

国民健康保険の加入者は高齢者、無職者、そして、フリーランス、中小零細業者、農業者などが多く加入し、所得では、300万円以下の加入者が80%にも達するという状況であり、国民健康保険財政は財政基盤が大変弱いという特性があります。また、国民健康保険料は、均等割、平等割があり、所得の低い人ほど保険料の負担割合が高いという逆進性の強い制度となっています。そのため、滞納者が大変多くなっております。所得のない子供の均等割負担の全額免除を訴えるものです。

2023年度の調査では、千葉県内平均では滞納世帯率が16.03%になっています。野田市でもやむなく滞納せざるを得ない加入世帯が、2,612世帯(11.76%)となっています。

国民健康保険事業は、公的な財政支援が必要不可欠です。全国知事会では、国に向けて1兆円の公費投入の必要性を求めています。野田市独自における一般会計からの法定外繰入れで2025年度以降の国民健康保険料の引上げを中止するよう陳情いたします。

### (陳情項目)

- 1 国民健康保険料の引上げを中止してください。
- 2 18歳未満の均等割負担の免除をしてください。

令和7年2月18日

野田市議会議長 古橋 敏夫 様

陳情者

野田市鶴奉39番地の9

野田市生活と健康を守る会

会長 大橋 廣志